

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会的役割やそのグループホーム独自の理念を認識し明確に掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員がホームの理念を共有し、日々のケアサービスに活かしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所はホームページ・パンフレットに明示すると共に、ホーム内に見やすく掲示し入居時にも入居者及びその家族にも説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝夕の挨拶は勿論のこと散歩時にも気軽に声掛け等を行っている。又開花時期にも声を掛けて頂き見物に行くなど良好な関係を築いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りごとへの参加は勿論、年2回（春・秋）の道掃除、用水清掃にも積極的に参加する事により交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の貢献として実習生はもとより、他施設からの研修依頼を積極的に受けている。又、介護者教室の講師依頼等も引き受け地域住民へグループホームの役割などについて発信している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員は認識、理解し日々の職務に活かされるよう、改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者のサービス状況・現状等を報告し次回開催につなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議はもとより、それ以外の場合においても常時、相談助言が得られる関係作りに努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用者の方で成年後見人制度が必要な方がおられ、その仕組みや手続き等を、インターネット、資料を参考として勉強している。	○	全職員が理解できるよう研修の機会を設けていきたい。又施設内での研修はもとより、施設外で開催される講座等に参加できる機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は時間がある限り話し合い、些細な事柄でも口に出してお互いにストレスを溜めないようにしている。虐待防止についての講座に参加したりインターネット・参考文献によりそれについて学んでいる。又職員間においても一人で問題を抱え込む事がないよう随時話し合いの場を設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を費やし相手が理解、納得するまで説明している。重要事項説明はもとより、苦情解決、個人情報の同意、看取り、身体拘束等についても相手が分かりやすく事細かく説明するよう心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等を利用し、気の付くこと等を出して頂いている。食後の一服時間を含め一日一回以上は、利用者と職員がテーブルを囲み話し合いの場を投げつけてその中から意向や思いをくみ取れるようにしている。又意思疎通の判断が困難な方については日頃の言動から思いを察し対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的な報告としては、まことだよりを年に3回送付・家族会を年3回開催しているが、不定期的な急を要する報告は電話等を利用している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の家族会はもとより、日々の面会時においても常に家族へこちらから話しかけ何でも言っただけのようなアプローチに努めている。直接言いにくい場合に備えて、意見箱をエレベーター横に設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員が気安く話が出る様に月1回以上のカンファレンス時にも時間を充分設けており何でも話せる環境作りに努めている。又、全体で言いにくい場合についても随時個別に話し合えるよう配慮している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活リズムに合わせた勤務作成に努めている。又、必要とあれば常勤職員はもとよりパート職員と話し合いながら時間を調節している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は必要最小限に抑えている。又、職員はグループホームに相応しい人を確保している。新職員についてもとにかく利用者と多く話す機会を設けなるべく早く親近感を深めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナー研修を受講し、スキルアップのためには段階に応じた研修を受講し、受講後は研修内容報告会を実施し、全職員で共有が出来る様にしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等には積極的に参加し他の施設の職員と顔馴染みになり、お互いが気安く交流できるように心掛けている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの多い職場であることを認識し、職員とはコミュニケーションを通してストレスの軽減に努めている。職員の親睦を兼ね、食事会を設けたりしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し自信を持って取り組んでもらい各自の意欲向上をはかっている。又、資格取得に向けた支援が出来るような労働環境づくりに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に利用者本人が何を望んでいるかじっくり聴き取りを行い、意思疎通が出来ない方には、家族、担当ケアマネより、過去の生活状況、性格、趣味などを聞き出しそれに基づいて利用後の処遇方法に役立っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅時の家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用希望に至るまでの経緯について聞けるように心掛けている。家族とも信頼関係が結べるよう何もかも話していけるよう努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	即入居を促すのではなく、本人、家族の要望、状況をじっくり把握して必要とあればケアマネ包括支援センターへつなぎ他方面から支援出来る様に努めている。利用者が必要としていることを見極め、必要であれば家族の協力もお願いして支援している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学してもらい他の利用者への紹介、職員との顔合わせを先にするようにしている。又、入居後何日かは出来る限り家族の面会をお願いし本人の不安の配慮に努めている。急に環境を変えるのではなく、家族と相談しながら本人が理解した上でサービスを開始している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全利用者、全職員が一つの家族であるような環境を作っている。「〇〇子さん」等本人が気に入る呼称を使ったりして、より親近感が深まるように努めている。自尊心を傷つけない配慮にも努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お互いに協力していく(職員間ではうまくできないことも)お願いしている。	○	家族の方においては、時間的な無理もあるようである。 最終的には協力して頂くよう理解して頂く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係を理解し面会等、協力して頂く。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切に頂くためにも、友人知人の面会もお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	昼間はなるべく居室へ閉じこもらないよう促し、ホール等で机に座り、お互いが顔を見て食事をしたり話をしたり出来る環境作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方等は、時々電話をしたり訪問してその後の健康状態、生活状況などを聞き、要望があれば相談にのるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に、できる限り意向通りの暮らしが出来る様に配慮している。意思疎通が困難な方に関しては、家族の意向又は本人の立場に立って考え、より良い暮らしが出来るよう配慮している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはケアマネや家族等から丁寧に聴き取りを行い入居後にも面会した折には再度過去の状況について聴き取りを行い詳しい生活状況の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の経過観察はもちろんの事、ミーティングや出来ることシートなどを利用して現状の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成には、本人はもとより家族の意向、日々本人に接する職員全員の気づきや意見を取り入れている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態や希望の変化、家族の希望に応じて介護計画の期間を問わず柔軟に見直している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活援助シートを利用し個人の日々の記録をとり次の実践に結び付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして受診、入院の回避はもとより、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、家族、病院との連携により終末期の入院回避に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に地元警察官を呼び安心な生活が出来るよう支援を要請している。又、地元民生委員やボランティア団体を把握し協働できるようにしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	要望があれば入居者の馴染みの美容院と連携を取り利用して頂いている。その他の方については定期的な美容師の訪問をお願いし実施している。又、他の事業所開催の介護者教室にも参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度が必要な利用者があり、地域包括支援センターはもとより、在宅時の担当ケアマネとも協力して利用できるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医による毎月の定期受診を行い、適切な診断、治療が受けられるような環境を作っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護の協力の下、健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐ為に医師、家族、訪問看護師と相談し事業所内で可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の方に重度化における文書を見て頂き確認・協力をお願いしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護の協力の下、終末期等できる限りの支援に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	その人らしい暮らしや経験を大切にすることは、利用者のバックグラウンドを知ることがあり、入居時には家族と本人から情報を得て過去の経験を取り入れた補助をしている。具体的な情報提供を書面及び口頭にて相手先に行っている。又、他の施設に慣れるまでは馴染みの職員が随時訪問して精神的ダメージの軽減に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	言葉かけや対応には気を配っている。特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し受容するように心掛けている。記録も個別で取り扱っている。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	利用者一人ひとりの意見や希望を重視し大切にしている。又、訴えのない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	時間がかかっても相手のペースに合わせて見守ることが必要、手を出し過ぎないように心がけ、出来ていない事や間違っている事は共に後々からフォローするようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	家族の方が外出を兼ねて、美容院へ連れて行ってくださる方もある。又、希望がある時はボランティアの方に来て頂いている。身だしなみも季節や気温や場に合わせることは勿論体調に合わせて快適に暮らせるようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	本人が望めば時間や場所を考え支援する
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常の金銭管理は、本人の能力に合わせ対応している。買い物についても本人自ら支払いが出来るように支援している。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気が良いときなどは、近くの神社などに出かけていき、近所の方と話をしたりして過ごしている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族に参加して頂き、外出、行事や食事会など一緒に行えるような場面や機会を作っている。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望があるときは随時電話、手紙にて本人の希望に応じて支援している。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>家族がいつでも訪問出来るように門限は設けておらず気軽に訪問し易い雰囲気作りに心掛けている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束のないケアを実施しているが、命にかかわる緊急等の止む得ない場合においても身体拘束同意書を作成して家族への説明、同意を行えるようにしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関がエレベーターで構造上の問題はあるが、常に出入りは自由になっており昇降が可能である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	建物の構造上、見守りに死角が生じる部分は少ないが転倒転落事故などが起こらないように常に目配り気配りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や刃物などの注意が必要な物品については、保管場所、保管方法を決めている。又、使用する際には、職員を通じて手渡し、使用中にも見守りをさせていただくようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書に記入し、それを基に再発防止のための話し合いを行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設マニュアル、過去の事例を基に管理者を中心として定期的にカンファレンス、ロールプレイを行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回行っている防災訓練を通して災害時における対応策を学んでいる。又、地元消防団、隣接する関連施設への救助要請を出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時、家族会においてしっかりした説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回のバイタルチェックを行い異常の早期発見に努めている。又、その変化は記録に残している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容を理解しており、医師より処方された薬をホームの側で管理し、投薬時も誤薬、服用し忘れないよう支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックシートを活用している。下痢状態があるときは粥食にしたりその時の体調にあわせて柔軟に対応している。また、便秘に関しては、歩行訓練、体操、繊維食摂取等で対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど食後や就寝前の口腔内の衛生に努めているが嫌がる人の対応が難しい。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の摂取量のチェックを行っている。また、定期的にお茶の時間を設け水分補給に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応策マニュアルを作成しそれを基に対応している。又、勉強会などにも参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器に関しては、殺菌のために毎食後、食器保管庫にて熱処理している。調理器具、まな板などについても同じようにしている。食材においてはケアハウスの大きな冷蔵庫に保管していただきその都度必要な分だけ使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ケアハウスと共有している玄関には常に花を飾り、季節に応じた壁飾りをしている。グループホームの入り口のエレベーター昇降口にも花、水槽などを飾りつけおだやかな雰囲気を出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは4階建ての4階部分にあり玄関がエレベーターとなっているが、ホーム内には作品や花を飾り利用者には自宅にいるという空間作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間から少し離れた所に机、ソファを多数設置しいつでもどこでも、独りで過ごせる居住空間を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは火気を除いては自由として おり自宅で使用していた物に囲まれた生活ができ るようにしている。又、ベッドやタンスにおいて も本人が使いやすい配置にしてある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	天気の良い時はなるべく窓、テラスへの扉を開 けっ放し自然の風が入るように心がけている。 又、採光に関しても、電気が付いていなくても充 分室内が明るいようカーテンなどで調節してい る。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	全フロアがバリアフリー構造となっており、安 心、安全を提供している。又、洗濯の物干しの高 さを低くしたり、浴槽に階段を設置し無理なく入 浴が出来るよう安全且つ容易に利用者が使用でき るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人ひとりにあった役割を持って頂き、その事か ら生き甲斐を見出し自信を持っていただく。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	4階の広いベランダを利用し、花の世話をしたり 洗濯物を干したりしながら活用している。又、ベ ンチなどを設置し、日向ぼっこをしたり食事を摂 ることもある。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ホームに閉じこもらないよう、散歩・ドライブなど外出支援をふんだんに取り入れている。
- 仕事をしている充実感として、ちぎり軽作業を行っておりその収益は利用者への外食代にあてている。
- 認知症が進行しないよう、レク、クッキング、音楽、回想法などのクラブがあり集団活動の中で良い刺激を提供している。
- 五感への働きかけの工夫として季節感がある壁面をつくり、変化をもたせるよう工夫している。